先ニ君ニ命ヲ継候の由ニ而然るをもつて此方表も丈夫ニ押へ
清文子ハ会津ニ在逆意ニて京都の留守追従と決定一段
ひそかに石田治部少輔と倶企叛逆関西の諸将一味致候段承覚
大津の城ニ而右之通七月廿日の比小山ニ而
様の首尾とりしと候し会津ハ大将宰相景勝ニ山形ニ而相待
北ニ仰付結城宰相秀康を小山ニ留置家康公秀忠
公は上洛ニて城従のもの諸将共日本中山道を上り
大文字上同武蔵野へ入てせめける
然ニ最上諸将為加勢山形へ馳集る事
右様ニ家康公方出張書付月廿八日小山形へ出陣候

しかるに今度会津表の儀は出羽忠石の者共聴候而下野を
然ニ最上の諸将為加勢山形へ馳付候所ニ而下知の者不日ニ
この陣儀も軍の儀ハ縦令会津より乱入家康公
清文子も押付出羽之城の手前より信長公義光公を
お作の下右左衛門の諸将軍勢をもつて最上山形へ馳付
申出候而所記しられ南部信濃守千人最上部少輔人
六沢九郎左衛門五百人加田源七郎五百人
赤尾源次郎五百人加保其庄右衛門八百人湯沢板谷五百人
因縁孫右衛門弐百人山家細田五人とても記りし右の人々に指集す
二十三日延紀佐文二つ之通り御出陣の手筈にて相定め候